

## 第1回FD研修会の開催報告について

### 1 日時

2023（令和5）年8月2日（水）16:20～17:25

### 2 場所

713教室または各研究室等からZoomで参加

### 3 対象者

全教員

職員（任意）

### 4 研修内容（テーマ）

#### （1）テーマ

「発達障害のある学生、グレーゾーンの学生への支援を考える」

#### （2）研修会

##### ①司会・進行（コーディネーター）

福島 豪 先生（研究教育開発センター センター員）

##### ②講演者

永富 大輔 先生（研究教育開発センター 副センター長）

### 5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

所 属	対象者数（名）	参加者数（名）
経 済 学 科	14	9
経 営 学 科	16	14
社 会 福 祉 学 科	15	15
児 童 学 科	18	18
国 際 文 化 学 科	21	16
音 楽 学 科	8	6
看 護 学 科	27	23
教 員 合 計	119	101
事 務 局 職 員	87	53
合 計	206	154

## 6 総括

- (1) 永富先生から発達障害のある学生や、いわゆるグレーゾーンの学生への支援についての配慮や接し方等についてお話をいただき、理解を深めることができた。昨今の状況を踏まえると、そうした学生は全国的に増えており、本学においても今後の対応については十分に考える必要があると改めて実感した。
- (2) 教職員の意識ももちろんのことではあるが、同時に学生によるピアサポートの意識もあってこそ成立する支援の部分もあるため、やはり大学全体の取り組みが必要であることを再認識することができた。今回の研修会はそのための大きな一歩となったのではないかと思う。
- (3) 学長講評において、「ピアサポートは今後かなり重要になってくるが、本学の学生においてはそうした意識を持つことができる学生はかなり多くいるだろう」という本学における展望の見解をいただいた上で、「このテーマについては今後もまた取り上げてほしい」と、発達障害やグレーゾーンについて、今後も継続的に見つめていく必要があるというご意見をいただいた。

以上

## 第2回FD・SD合同研修会の開催報告について

### 1 日時

2023（令和5）年12月13日（水）16:20～17:30

### 2 場所

各自の研究室、事務室等から Zoom で参加（一部の教職員は715教室で参加）

### 3 対象者

全教職員

### 4 研修内容

#### (1) テーマ

「助け合いについて ～学生FDパートナーと語り合う」

#### (2) 研修会（シンポジウム）

##### ①総合司会

永富 大舗 先生（研究教育開発センター 副センター長）

##### ②コーディネーター兼シンポジスト

福島 豪 先生（研究教育開発センター センター員 WG2 リーダー）

##### ③学生代表（シンポジスト）

学生FDパートナー4名

##### ④研修会講評

小林 潤司 学長

### 5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

所	属	対象者数（名）	参加者数（名）				
経	済	学	科	14	8		
経	営	学	科	15	12		
社	会	福	祉	学	科	15	13
児	童	学	科	18	13		
国	際	文	化	学	科	21	10
音	楽	学	科	8	6		
看	護	学	科	27	22		
教	員	合	計	118	84		
事	務	局	職	員	89	39	
合		計		207	123		

## 6 総括

- (1) 今回は昨年度の第2回研修会に引き続き、学生FDパートナーの参加による研修会を実施した。今回のテーマは上記の通り「助け合い」がキーワードとなり話を展開していったが、令和4年度のテーマであった「授業アンケートについて」と比較して、テーマの取扱いが難しい性質を持っていたと思う。しかしながら、その中でも学生FDパートナーが学生の視点から色々な意見を出してくれたと思う。
- (2) 教員側のひとつの意見として福島先生からは、主に、1) 学生—学生間の助け合いについての実態を教員はなかなか知る機会がない、2) 教員—学生間の助け合いもまた大切である、3) オフィスアワー等、大学に設置しているシステムは意外と学生は知らない可能性があるため、もっと周知をするべき、4) 学生に「大人なんだから」と言い放つことは簡単だが、教育・指導の観点から、それが一概によい方法ではない、今回のテーマである「助け合い」は、甘やかしてではなく人としての素直な気持ちとして持つべきものであるという意見があがった。
- (3) 研修会を通して、たとえば孤立しがちな学生がいたとして、学生間においてもその場合なにかしら感じるものがあるという点を知ることができた。また、そうした際に、具体的にどう感じているのかについてもよく聞くことができた。
- (4) テーマ自体が様々な解釈を許容するものであり、とても難しいものではあったが、学長のお言葉にもあったように、やはり今後より必要になってくるテーマであると改めて感じた。今回はいわばその「スタートライン」に立っただけかもしれないが、今後も研修会等を通して全体で考察を重ねていく必要があるものだと思う。

以上

## 第3回FD・SD合同研修会の開催報告について

### 1 日時

2024（令和6）年2月27日（火）13:00～14:30

### 2 場所

713教室または各研究室等からZoomで参加

### 3 対象者

全教職員

### 4 研修内容

#### (1) テーマ

『「オンライン授業等の実施に関するガイドライン」の策定と今後の展望について』

#### (2) 研修会

##### ①総司会

永富 大舗 先生（研究教育開発センター 副センター長）

##### ②講演

小林 潤司 学長

##### ③ディスカッション

加藤 凌 先生（研究教育開発センター センター員）コーディネーター担当

小林 潤司 学長

永富 大舗 先生（研究教育開発センター 副センター長）

福島 豪 先生（研究教育開発センター センター員）

塩満 智子 先生（研究教育開発センター センター員）

##### ④研修会講評

吉留 久晴 副学長

### 5 当日の参加者数（含・動画視聴者）

令和6年4月23日現在

所	属	対象者数（名）	参加者数（名）				
経	済	学	科	14	7		
経	営	学	科	15	13		
社	会	福	祉	学	科	15	12
児	童	学	科	18	17		
国	際	文	化	学	科	21	12
音	楽	学	科	8	5		
看	護	学	科	27	24		
教	員	合	計	118	90		
事	務	局	職	員	89	27	
合	計	207	117				

## 6 総括

- (1) 今回は新型コロナウイルスの爆発的な拡大から現在に至ってもなお課題となっているオンライン授業についての研修だった。小林学長の普段の取り組みは、今後のオンライン授業の在り方について、他の教職員にとって深く考える契機になったといえる。やはり全国的に未だオンライン関連に関しては手探りの状況であることから、本学も課題を見出し、そして共有しながら進めていくべきものだと改めて感じる研修となった。
- (2) 学長のお話の後で実施されたディスカッションでは、様々な学部で講義をされている教員側のご意見を聞くことができた。当然ではあるが、やはり講義の形式によってはオンライン講義のしやすさにはかなり違いがあり、一概にオンライン授業が円滑にいくというわけではないことを再確認することができた。また、セキュリティの面においても脆弱な部分が無いように整える必要があることも改めて感じた。
- (3) 研修後の教職員のアンケートを見る限り、いずれの教職員にとってもオンライン関連は大きな課題であり、今後も一進一退を繰り返していくものかどうかはえる。吉留副学長からの講評にもあった通り、我々は手探りで、学生にとっての利益を最優先としてこれからも進んでいくしかないであろうと思う。全国的にもしっかりと定まりきってはいないカテゴリーであるこのオンライン授業において、それでも大学全体として意見を出し合い、共有していくことが大切であるし、今回はその大きなきっかけとなったのは間違いないかと思う。

以上